

平原正樹さんの思い出

慶應大学教授、WIDE プロジェクトファウンダー

まず、平原正樹さんメモリアルシンポジウムにあたり、突然の欠席となってしまったことをとても残念に思います。関係者の方々にはご迷惑をおかけして申し訳ありません。心よりお詫び申し上げます。

平原さんとは、1980年台の中頃からコンピュータとネットワークの研究活動をご一緒しました。研究活動と言うと、「研究の活動」のように聞こえますが、実は、私と平原さんの付き合いは、「研究やそれに関連した活動」、という意味の、研究活動です。

1980年台は日本にとっても、世界にとっても私達の分野ではとても重要な時期でした。平原さんのいた九州大学を始め、大学では UNIX が使われ、そのネットワーク化が一番面白い時でした。米国でも ARPA ネットで始まった研究ネットワークが、一般の大学へと展開する CS ネットの動きがありました。このような広域コンピュータ・ネットワーク発展の課題は、音声の電話網からデータ網への展開をどうするかにかかっていた。電電公社の民営化から10年が経過した日本で、JUNET の活動を九州大学から北海道大学まで、コンピュータサイエンティストの力でつなげたことは、インターネットの世界展開の視点でも先端の環境でした。よく私は「米国生まれのインターネットを日本に紹介した人」と言われますが、これは間違っています。日本で平原さんたちと動かしていたネットワークや、いくつかの先端的なコンピュータ・ネットワークが世界で融合してインターネットを形成したのが事実です。その証拠に、1990年代初頭のコンピュータ・ネットワークの商用化以降、インターネットの革命ともいえる発展の中で日本が米国を含めた他国の後塵を排したことはほとんどありません。こういうつっぱりを平気で言うのが私の悪い癖ですが、これに負けない悪い癖をもっていたのが平原さんです。

平原さんは、こうしたコンピュータ・ネットワークの出発を九州のリーダーとして活躍していました。九州をとりまとめ、「九州は違うんだ」というつっぱる態度は私の日本版つっぱりととても似ていたと思いました。

その九州リーダーがある日私のところに来たことを覚えています。学会のホテル、多分カリフォルニアかホノルルのホテルだったとおもいます。「アメリカでやってみたい」。NSF ネットを動かしていたミシガン大学の Merit のリーダー、今 IANA の研究企画やられている Elise Gerich さん、をプールサイドに求めて、売り込んだのを覚えています。NSF ネットは、米国を上げて推進した学術ネットワークです。このすべての開発、運用、国際接続のすべての中心ですので、インターネット中枢部に飛び込んだわけです。これが、九州のリーダーが、世界のハンドル握ったときです。

平原さんには、アドレスやドメインの管理の JNIC など、研究から離れた「活動」もたくさん一緒にやりました。そうでなければ、何も動かない時代でした。そんなことは雑用だ

と先輩たちから言われました。研究の延長に人に社会に貢献するための「活動」は、たとえ雑用と言われても、信じたことをやる。これが私の長い経験の中で、平原さんと私が最も共有する部分です。

平原さんは信念をもってやりました。

こうして平原さんを偲んで世界の人が集えるのはとても嬉しく思います。次の世代が、また、次の次の世代が、平原さんの信念と業績を理解し、未来を開拓する「研究活動」に活躍することが、平原さんのあの人なつつこい笑顔で見守ってくれることだと思います。

改めて平原さんへの心からの敬意を込めて、

2013年7月26日

村井純